

一般県道平泉停車場中尊寺線「中尊寺通り」の整備について

～ 美しく魅力あるまちづくりの推進 ～

道路環境課

【中尊寺通りの概要】

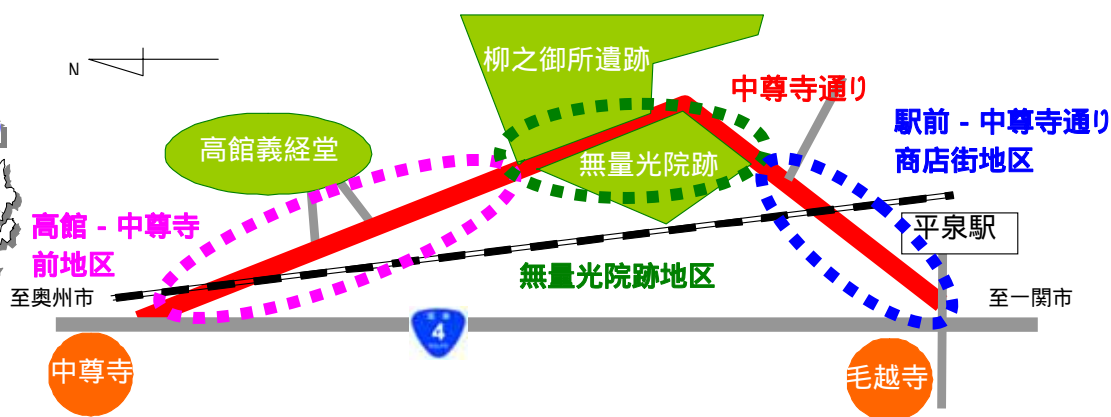
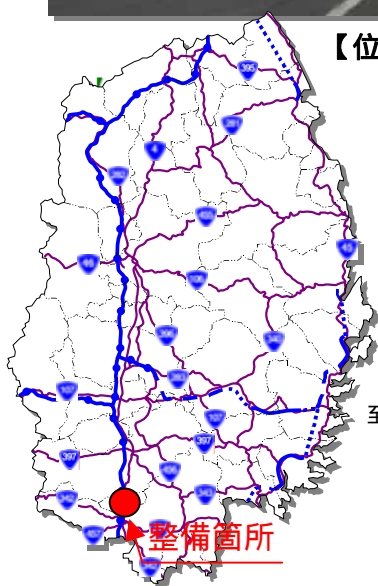
一般県道平泉停車場中尊寺線（通称「中尊寺通り」）は、JR平泉駅と中尊寺を結ぶ延長1.4km、幅員7.6m～11.0mの道路で、世界遺産登録を目指している「無量光院跡」「柳之御所遺跡」「中尊寺」を結ぶ観光上重要な道路であるとともに、地域住民の生活道路でもあります。しかし、現在の道路は、歩道が未整備のため歩行者の安全確保や、電柱・電線が景観を阻害している等の課題があります。

中尊寺通りのまちなみ



【位置図】

【概要図】



【整備に向けての検討状況】

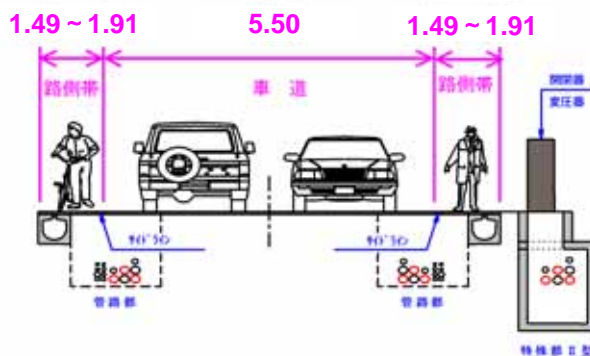
中尊寺通りは、世界遺産登録を目指しコアゾーンとして位置づけられている「中尊寺」「無量光院」「毛越寺」に通じる道路であることから、県では、平泉町が進めている「連歌方式による景観まちづくり」と連係を図りながら、整備のあり方について検討を進めています。

「連歌方式による景観まちづくり」とは??

「人が歩きたくなる景観」を創出するために、人が立っている場所からほど近い場所に次の景観資源が見えることにより、「そこに行ってみよう」と思わせるような景観づくり

【計画断面図】

[単位:m]



【中尊寺通りの整備検討の歩み】

～ 中尊寺通りまちなみ整備の方向性 ～

中尊寺通り全体を3地区に区分し、生活しやすく誇りを持てるまちなみ、「中尊寺への参道」らしいまちなみ、人の顔が見えるにぎわいのあるまちなみ、「浄土」や「やすらぎ」が感じられる歩行者にやさしいまちなみにします。人が歩きたくなる魅力的なまちなみにしていくために、「景観拠点」を作っていくことが必要です。

<H18～H21>

- 中尊寺通りまちなみ整備検討会設置（振興局、町、地元有識者、住民等）4回開催（H19.1）
- 中尊寺まちなみ整備検討会作業部会による社会実験（H19.12.5～11）
- 中尊寺通り交通量調査実施（国道4号平泉バイパス供用前H20.7、供用後H20.9）
- 中尊寺まちなみ整備検討会作業部会（H21.4、7、8）
- 住民説明会（H21.9.8～10：3地区で開催）歩車共存道路と電線地中化を提案（反対意見なし）
- 中尊寺通り路線測量の実施（H21）

<H22>

- まちなみ方向性及び中尊寺通り整備計画説明
- 電線地中化予備・詳細設計、道路詳細設計
- 道路景観設計（プロポーザル方式）
- 道路デザイン設計（道路デザイン検討会）
- 平泉町重要公共施設デザイン会議

道路デザイン検討会（住民協働部会）の開催状況



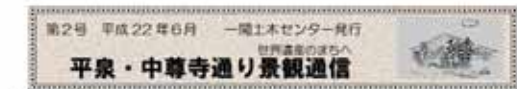
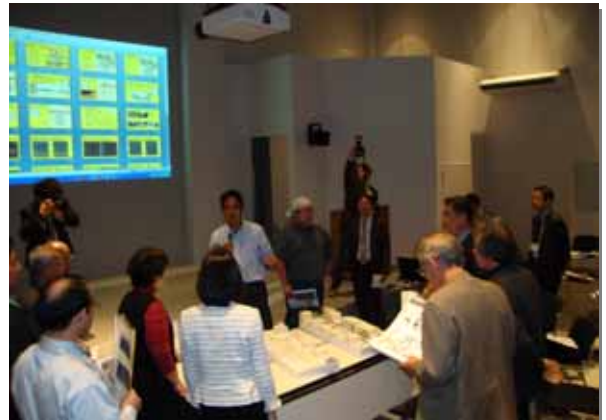
道路デザイン検討会（住民協働部会）の現地調査



【「平泉・中尊寺通り景観通信」の発行】

県では、住民の方々と情報共有し、一緒に平泉町らしい景観を守り育てるため、これまで7回発行しています。

道路デザイン検討会（作業部会）の開催状況



◇ねらい◇

景観づくりに関する情報を発信することで、住民の皆様と情報の共有を図り、一緒に平泉町らしい景観を守り育てることを目標に発行しています。

◇まちなみ整備の方向性の説明会開催される◇

中尊寺通りまちなみ整備検討会作業部会による「まちなみ整備」の方向性の説明会が6月7日（13区公民館）、8日（滝沢魚店）、11日（民家）で開催。あわせて一関土木センターから中尊寺通り整備の基本方針の説明を行いました。



【主な内容】

小野寺町作業部会会長から、まちなみ整備の方向性の概要、梶子を活用した緑地の取組み事例、動き始めたまちなみの変化について説明、報告がありました。また、一関土木センターの整備の基本方針説明について、出席者から多数の意見が寄せられました。⇒意見

- ① 照明灯をなくして足元灯にすれば（暗くなり）防犯上好ましくない。
- ② 防犯上から駅前のにぎわいに配慮した照明と同じようなものを設置しては、
- ③ 中学生（修学旅行）が聖空を見て感動している、御小僧の光でよい。
- ④ 足元灯は踏歩車が来ても大丈夫か。
- ⑤ 足元灯など照明のサンプルを示して欲しい。
- ⑥ 地上機的设计はどのようなものか。
- ⑦ 車止めは雪払いに支障が出る。道路の除雪対策を考えるべき。
- ⑧ 舗装は毛越寺様と同じものになるのか。
- ⑨ 雪と側溝交差部が毎年1～2回あられて冠水するので改善が必要。

一関土木センターでは、頂いた意見を元に今後の設計の中で調査・検討していきます。

◇中尊寺通りの照明の実態◇

説明会での意見を受け、早速、中尊寺通りの各地区ごとに調査（6/8）した結果、照明施設は65灯あり、駅前から無量光沢地区まで概ね20m、高部・中尊寺地区は概ね40m間隔であることが分かりました。一関土木センターでは各地区の夜間の明るさを調査して、定量的評価を行うと共に、夢明かりによる灯照の競争を行い、今後のデザイン検討の基礎資料とする予定です（裏面のお知らせへ）。

	千手さん	臥龍灯	行灯	合計	備考
駅前・中尊寺通り地区	19	5	9	33	約16m間隔
無量光沢	4	5	5	14	約20m間隔
高部・中尊寺	6	7	11	18	約27m間隔
合計	29	17	25	65	約22m間隔

